

大杉谷自然学校は中部地方、三重県多気郡大台町にあります。活動を展開している大杉谷地区の人口は現在270人、昭和55年には2986人だったことを考えると、この間40年で人口は約10分の1まで減少したことになります。高齢化率（65歳以上が人口に占める割合）は70%を超えました。

大杉谷自然学校は昔、小学校でした。1998年に児童数がたったの4人となり、閉校になりました。小学校は不要になったのに、自然学校は今の日本に新たに必要になってきたのです。

現代の日本の子どもたちには、炎を見たことがない、川に行ったことがない、岩に触れたことがない、さらに土の道を歩いたことがないというほど、自然の中で生きている実感が極端にない子たちもいます。子どもたちだけではなく、今の50歳代以下の多くの人々も日々の暮らしで自然を感じる機会はほとんどありません。自然で食糧を得たり、薪で煮焚きしたりといった、自然が必要不可欠である暮らしを知らないのです。そして、お金や情報や科学の力で、世界の全てが説明できる、理解できると考えてしまいがちです。

でも、本当にお金やネットに溢れる情報や隅々まで明らかにしつつある科学の力があれば、全てわかるのでしょうか？

大杉谷自然学校の職員は40代以下の若い世代です。日々、地域のお年寄りの方々から学ぶたくさんの方がおり、それは尽きません。自然を知りつくした経験則を引き継いできた地域に伝わる英知は本当に深く、良く考えられているのだと感心することばかりなのです。

平成16年9月末大台町は豪雨災害に見舞われました。土石流で養殖場も家も全て失った地域の方の言葉が今も忘れられません。

「自然はすごい仕事していった」自然を敵視するわけではなく、自然の強大な力の前に湧き上がった思い。そこには自然への畏敬の念が詰まっていると思いました。

さて、現在の日常で、自然への畏敬の念が感じられる機会が何度あったでしょう？ 自然に畏敬の念を払える人が周りに何人いるでしょう？大杉谷に暮らすお年寄りたちは皆、長年培われてきた自然と共に暮らす生活や意識を引き継いできているのです。それはけっして大杉谷だけに残るわけではありません。今日本の各地で同じような人口減少により消滅しかかっている地域を始め、経

済に取り残された世界各地に無数に点在しています。

世界が急速に標準化した価値観を得ようとしている今こそ、地域に点在する多様な価値観はますます重要性を増していくでしょう。

拡散しているように見えて、急速に集束し画一化する世界のバランスや、心のバランスをとるために、地域が伝える多様性「私たちの本来の在り方」を認識し、伝えていく。これが大杉谷自然学校に今求められている使命です。

プロフィール 大西かおり

1972年三重県生まれ。三重大学教育学部を卒業後、1995年より3年間青年海外協力隊員としてフィリピンの理数科教師を再教育するプロジェクトで活動する。帰国後、2001年から故郷大台町の大杉谷自然学校で環境教育や地域活性化などを行っている。現在、NPO 法人大杉谷自然学校校長。

